

北海道南幌高等学校だより

校訓 「自主 自律」

北海道南幌高等学校

☎069-0238

南幌町元町3丁目2番1号

TEL:011-378-2248 FAX:011-378-2629

http://www.nanporo.hokkaido-c.ed.jp



南高不惑

『Forward』

校長 矢橋 佳之

お恥ずかしい話ですが、小学生のころ運動会が大嫌いでした。徒競走ではいつも最下位。みんながゴールした後でまだ走っているだけでも苦痛なのに、友人のお母さんが大きな声で「がんばって～」と叫んでいる。結果が出せない人間でもがんばっているのですが、声援のおかげでさらに目立ってしまうのがものすごく苦痛でした。

最近では、同じようなタイムの子を集めて競走させてくれたりする学校もあると聞きます。一時はゴール前で全員が手をつないで「みんな一等賞！」とゴールさせる学校があったという話を聞いたことがあります。

変な人だと思われるかもしれませんが、私の運動音痴は自分の人生の財産の1つです。自分は足の速さではヒーローにはなれないということは子供ながらに深く刻み込まれましたが、そのおかげで「じゃあ、自分は何でがんばればいいんだ？」と考えるきっかけになりました。「みんな一等賞」をしないでくれた母校には本当に感謝しています。

高校の体育行事などではあえて運動音痴の人間でチームを作り、団結力を大切に勝利よりも1プレーを大切に盛り上がりましょう！とポジティブに取り組むことにもつながりました。

体育のバスケットボールの試合で、「とにかくお互い励ましあいながら楽しくやろう！」と、「ドンマイ」「ナイッシュー！」などとやっていたところ、クラスメイトも応援してくれるようになり、ギリギリまで同点。試合終了寸前のカウントダウンのタイミングでN君が超ロングシュートを決めるというまさに“ブザービート”で勝利した日は、運動音痴な私たちがヒーローでした。

その後、大学を出て最初に選んだ職業は証券マン。学校とは縁がありませんでした。

入社してその仕事を一生続けていける能力に欠けていることを悟りましたが、次の仕事に就くときに、「何か嫌なことがあったらすぐに仕事を辞める人間」とは思われたくないと

いう意地もあり、些細なことでも「この会社で学べたことはこれです」と胸を張って言うようなものを残してから転職するんだと3年間続け、営業収益部門ではありませんが、支店長賞を受賞することができました。

そして、大学新卒者と比べると6年遅れての教職スタート。

2年目に担任を持った時、学級通信のタイトルに悩みました。

教師として、生徒に何を伝えるのか…。けして生徒に自慢できる経歴だらけの人間ではありませんが、「世の中を生きていくうえで、『前向きな気持ち』は絶対的な武器になる！それだけは生徒たちに絶対に伝えたい」そう思い、どの学校でもタイトルは「forward」で通しました。

思い返しますと、私の教員としての特性は例えば運動音痴であったこととか、転職経験があることとか、一見デメリットになりそうなことから生まれているようです。問題はそこにどう向き合うかだったのだと思います。

日本一高い富士山は3,776m。平野から見上げると恐ろしく高い山です。そんな富士山も世界一高いエベレスト8,848mを目指している人からすると、半分以下の低い山です。

同じ事実に対して、どんな受け止めをするのかは自分に任されています。見方を変えれば、受け止め方が変わるという「リフレーミング」が大切になります。

一流のアスリートは、目指す未来を実現することから逆算して、今はこのトレーニングが必要だと考えています。毎日の**辛**いトレーニングをこなすことが目標ではなく、もっと速く大きな**幸**せを得ることが目標だからプラス(+)思考ができるのでしょう。

私たちも一緒です。

「**辛**」の頭(一画目)“辶”を“+”に変えようと「**幸**」に変わります。頭をプラス(+)思考に変えておくことが「**幸**」の第一歩なのかもしれません。前向きにいきたいですね。

進学講習が始まりました

(6月17日)

進学を希望する生徒が、自らの実力アップのために進学講習を受けに来ています。



自分の進路実現に向かって頑張っていきます。

進学講習は平常講習として個の進度に合わせて行われます。週1回程度。加えて夏季・冬季に集中で行う予定です。

生徒総会が開催されました

(6月19日)

「学年の壁を越え、何事もワンチームで取り組む」「地域の方々との交流を大切にすること」という目標のもと、活動していくことを生徒全員で確認しました。



12月に学校祭と体育祭の同時開催を計画するなど新しいアイデアを企画してくれています。



1 学年研修が開催されました

(6月23日)

宿泊研修は中止となってしまいましたが、クラス



の絆を深める目的達成のため3種類のプログラムを実施しました。1つ目はピアサポートという互いに助け合うためのスキルを身につけるプログラムです。「傾聴」がテーマでした。

2つ目は愛校心を育てるために、本校の歴史を学び、校歌の練習をしました。



3つ目は町の施設をお借りして、パークゴルフで汗を流して、交流を深めました。



防災避難訓練を行いました

(6月18日)



災害時に自分の身を守ることはもちろん、仲間の命も大切にすることを学びました。

花壇造成ボランティアを実施しました

(6月30日)

校門横 前庭などに花を植えました。

ボランティアで集まってくれた生徒が200株以上植えてくれました



来校される方、学校前を通られる方が楽しんでもらえるように、



学校の周りに彩りを添えることができました。

わたしの1冊

Vol.03

伊藤 泰生

『帰らざる日々～誰も知らないALICE』

アリス (谷村新司・堀内孝雄・矢沢透)

この本が出版されたのは、1980年8月20日。私が高校1年生の時。アリスは男性3人のニューミュージック(今ならさしずめ、「Jポップ」だろうか)のグループ。ヒット曲は数々ありますが、「チャンピオン」が有名です。高1の宿泊研修はニセコ。夜に宿の大広間でクラスごとの出し物があり、私はギターを弾き語りをしました。その時、アリスの「遠くで汽笛を聞きながら」を歌うほどアリスが好きでした。この本は、彼らが成功するまでの軌跡が書かれています。ギターとキーボードとコンガを3人で分担して抱え、列車のホームを移動しながら、全国の小さな会場でライブ活動を続けた下積み時代の様子が赤裸々に描かれています。北海道の北見市民会館でのコンサートのくだりが書いてあり、1500人収容の会場で、わずかに観客が30名という中でも、めげることなく、渾身のステージを届けました。「ここで、この30人に見離されたら次はもっとつらい思いをする。なにがなんでも魅きつけてしまいたい。」という彼らの強い意志がひしひしと伝わってきました。

■ 7月の行事予定

期末試験(8日~10日)

ハローワーク相談(10日)

講演会(21日) 進路対策演習(21・22日)

内科検診(29日)